

真岡市 校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進するまでの現状と課題

令和 2 年度から市内小・中学校に統合型校務支援システムを導入し、蓄積されたデータを利活用することで、事務の標準化、効率化を図り、教員が子供たちと向き合う時間を確保していくため効果的な運用を推進している。強固なセキュリティ対策が施されたサーバーでデータを一元管理することで情報漏えいリスクの低減にもつながっている。また、令和 6 年度から保護者連絡システムを導入し、欠席連絡や文書配布をデジタル化することで、紙資源の無駄を削減、情報の迅速な伝達、教職員の負担軽減が図られている。学校からの一斉連絡に活用するだけでなく、教育委員会からの一斉連絡にも活用している。

課題としては、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果、FAX の廃止ができていないことや、慣行に基づき押印を求めている文書があること、クラウドサービスの活用に課題が見られた。

2. 校務 DX を推進するための課題解決方針

- ・「真岡市総合計画 2025-2029」において、政策『「人づくり」～豊かなこころアップ！～』の中で、施策の一つとして「確かな学力の育成」を掲げ、主な取組内容として「教職員の働き方改革の推進」について明記し、子供と向き合う時間を確保するため学校の業務改善に関する取組を推進していく。
- ・「真岡市 I C T 教育基本構想」において、「校務面における I C T 活用の推進」を方針とし、書類作成や情報共有、採点・集計作業等に関するデジタル活用等、校務で I C T を活用した好事例を共有し、校務効率化を目指す。
- ・I C T 教育の専門家に市教育 DX フェローを委嘱し、校務 DX に関する助言を施策に生かすとともに、研修等を実施し、校務 DX を推進する。
- ・統合型校務支援システムについては、次世代の校務支援システムの導入を視野に調査研究し、グループウェアを活用した押印が不要な文書収受や決裁、FAX の廃止を含めた連絡手段のデジタル化等を検討する。